

第1回 泉佐野市地域公共交通協議会 議事録

日時：令和6年1月25日（木）13時30分～15時5分

場所：泉佐野市役所 本庁5階第1会議室

委員名簿

【敬称略】

関係区分	所属・職名	委員氏名	備考
市職員（特別職）	泉佐野市副市長	真瀬 三智広	会長
学識経験者	独立行政法人国立高等専門学校機構和歌山工業高等専門学校環境都市工学科准教授	伊勢 昇	副会長
交通事業者	南海電気鉄道(株)公共交通グループ経営企画部課長	松崎 彰宏	
	西日本旅客鉄道(株)近畿統括本部阪奈支社地域共生室担当室長	中嶋 和政	
	南海ウイングバス(株)取締役営業部長	讃井 聡	
	(一社)大阪タクシー協会常任理事地域交通委員長 (大阪第一交通(株)社長)	芝辻 徹	
	南海ウイングバス(株)労働組合書記長	尾原 健一	
関係行政機関	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(輸送部門)	中村 洋一	
	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(総務企画部門)	内田 雅之 (苅屋 翔)	(代理出席)
	大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課課長	鬼追 弘臣	
	大阪府岸和田土木事務所管理課長	稲井 成宏	
	泉佐野警察署交通課長	大仲 俊司	
公共的団体	泉佐野商工会議所専務理事	上野 公義	監査
	泉佐野市町会連合会連合会長	前田 益史	
	泉佐野市長生会連合会副会長	芝野 久己	
市職員（一般職）	まちの活性課長	今西 紀彰	監査
	まちの活性課地域振興担当参事	川崎 秀起	
	地域共生推進課長	中西 克子	
	都市整備部長	桑村 英司	
	道路公園課長	高橋 範光	

協 議 会 概 要

1 開 会

2 委員紹介

3 副市長挨拶

4 議 事

- (1) 協議会規約等の承認について
- (2) 会長・副会長・監査選出
- (3) 泉佐野市地域公共交通協議会の設置目的について
- (4) 泉佐野市の地域公共交通に関する現状・課題について

5 その他

6 閉 会



議 事 要 旨

1 開会

- ・事務局（泉佐野市 道路公園課交通対策担当 植田参事）の司会により開会（13 時 30 分）
- ・配布資料の確認（配布資料は以下の 8 点）
 - ・会議次第
 - ・委員名簿
 - ・配席表
 - ・資料 1 本日の協議事項（概要）
 - ・資料 2-1 泉佐野市地域公共交通協議会 規約（案）
 - ・資料 2-2 泉佐野市地域公共交通協議会報酬及び費用弁償規程（案）
 - ・資料 3 泉佐野市地域公共交通協議会の設置目的
 - ・資料 4 泉佐野市の地域公共交通に関する現状・課題

2 委員紹介

- ・事務局より出席委員及び事務局員の紹介（欠席者と代理出席者は以下のとおり）
 - ・近畿運輸局大阪運輸支局 内田雅之委員、代理出席：苅屋翔氏
- ・本日の協議会は委員 20 名全員が出席し、会議成立要件の過半数を満たしていることが報告された

3 副市長挨拶

- ・泉佐野市 真瀬副市長より挨拶（内容は以下のとおり）
 - ・本日は誠にお忙しい中、泉佐野市地域公共交通協議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また、このたび委員をお引き受けいただきまして、あわせて御礼申し上げます。さて、本市におきまして、地域の暮らしと産業を支え、住みよい生活を営むうえで公共交通が欠かせない存在となっておりますが、利用者の皆様より公共交通についてのさまざまなご要望やご意見を頂戴しているところでございます。そのような状況を踏まえ、本市では今後の公共交通の方針策定が喫緊の課題となっており、将来を見据えた地域の地域公共交通についての調査検討を行うため、泉佐野市地域公共交通協議会を開催し、ご教示をいただきたく存じます。そこで本日の協議会では、皆様からの忌憚のないご意見を頂戴し、市の地域公共交通政策に活かしてまいりたいと思いますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

4 議事

(1) 協議会規約等の承認について

- | | |
|------|--|
| 事務局 | ・資料 2-1「泉佐野市地域公共交通協議会規約(案)」及び資料 2-2「泉佐野市地域公共交通協議会報酬及び費用弁償規程(案)」について、ご賛同いただけるか。 |
| 委員一同 | (特に意見等なし) |
| 事務局 | ・ご賛同いただいたので、本日付けで泉佐野市地域公共交通協議会の規約等とする。 |
-

(2) 会長・副会長・監査選出

事務局	・ 泉佐野市地域公共交通協議会規約第 8 条により、“会長は泉佐野市副市長とする。”となっているが、事務局より会長 1 名を提案してもよいか。
委員一同	(同意の拍手)
事務局	・ ご同意いただいたので、事務局より会長を泉佐野市副市長の真瀬委員にお願いしたいと思うが、よいか。
委員一同	(特に意見等なし)
事務局	・ 異議なしといただいたので、会長は真瀬委員にお願いする (所定の席へ移動)。 ・ 続いて、副会長、監査の選出は、泉佐野市地域公共交通協議会規約第 8 条により“副会長及び監査は、委員の中から会長が指名する。”とあるので、真瀬会長よりご指名いただいてもよろしいか。
真瀬会長	・ 会長職を頂戴したので会議を進める。 ・ 副会長を和歌山工業高等専門学校准教授の伊勢委員、監査を泉佐野商工会議所専務理事の上野委員、泉佐野市まちの活性課長の今西委員にお願いしたい。
委員一同	(異議なし)
事務局	・ それでは、泉佐野市地域公共交通協議会規約第 9 条に基づき、議事進行は真瀬会長にお願いする。

(3) 泉佐野市地域公共交通協議会の設置目的について

事務局	※事務局より説明 (略) ※質疑応答なし
-----	-------------------------

(4) 泉佐野市の地域公共交通に関する現状・課題について

事務局	※事務局より説明 (略)
真瀬会長	・ 事務局からの説明に対し、何かご意見やご質問はあるか。
松崎委員	・ 市民アンケート調査に関して質問する。 ・ P15「調査方法」、対象者が泉佐野市在住の 4,566 名の Web 調査とあるが、どのような方に、こういったアプローチをしたのか。 ・ P17「コミュニティバスの利用機会」、%の左側 (実数) の数字が矛盾している。 ・ アンケート項目に「所要時間」を追加したほうが良い。1 周 80 分に対する長短という質問がないので、あったほうがより望ましい。
事務局	・ NTT ドコモのユーザー向けの d ポイントクラブに加入している泉佐野市民、約 4,600 名を対象とした。一般的なアンケート調査では高齢者にかなり偏るので、これから 20~30 年先の公共交通を考えると、若い方や現役世代の方々に対して意見聞き取りをしたく、Web 調査でドコモの d ポイントクラブを使わせていただいた。 ・ 報告書に掲載の正しい数字を、第 2 回協議会で提示させていただく。

	・今からこの設問のためだけにアンケートをするのは難しいため、コミュニティバスに乗り込んでヒアリングする際に、所要時間について追加で調査することとする。
真瀬会長	・ドコモのdポイントのアンケートは、各年代の母数は同じにしているのか。
事務局	・そもそもdポイントクラブに加入しているのは、中年層が若干多い。年代ごとに例えば50ずつなどすると同数が取れない年代もあるため、まず全員に依頼を掛けて、対応いただける方だけが回答している。
真瀬会長	・「コミュニティバスの利用機会」は50%までのグラフで、母数の横に%を書いているのか。例えば「自宅近くにバス停が設置された場合」の母数が2で34%と書かれている。
事務局	・報告書では「自宅近くにバス停が設置された場合」というのは200人で34.0%、「運転免許を返納した場合や自動車の運転を控えている場合」というのも241人で40.9%になっている。協議会資料へ貼付時に数値がずれたようなので、修正して提出させていただく。
真瀬会長	・グラフとしての表示は合っているが値の表記が間違っていることを理解した。 ・所要時間に対するアンケートをすればどうかということについては、今後、コミュニティバスの乗客の市民の方々に、どういう状況かご意見を伺うということにより。
事務局	・結構です。南海電鉄のご意見は、定時性の話かと解釈している。
松崎委員	・定時性というより、反対側のルートも欲しいということは、所要時間がすごく掛かっているということではないか。そういったご不満、改善点もヒントになる。
事務局	・時刻の遅れを非常に気にされていることが、アンケートからも読み取れている。コミュニティバスの実態調査に反映させていただく。 ・Webアンケートは、高齢者の回答割合は非常に下がってしまうが、今回は65歳以上の会員のうち6人に1人はお答えいただいている。全体の会員の割合としては低いが、回答率は非常に高いという結果が出ている。
真瀬会長	・このアンケートは、有効な調査結果であると解釈する。 ・所要時間については、再度検討をお願いします。
伊勢副会長	・コミュニティバスは運賃無料と書いているが、導入当初から無料なのか、ある時から無料になったのか。ある時からであればいつからか教えて欲しい。
事務局	・コミュニティバスは、平成27年から無料化している。
伊勢副会長	・P10「コミュニティバス、観光周遊バス利用状況」のグラフがある。平成27～28年ぐらいのところで急激に利用が伸びているのは、料金が下がったからか。
事務局	・それまでは料金をいただいていたが、無料化により利用者数が伸びた。
伊勢副会長	・元々の料金は、いくらだったのか。
事務局	・大人150円、子ども80円。

伊勢副会長	・P9「南海ウイングバスの利用状況」、コミュニティバスと路線が重複しているところが多いように思うが、無料化しても民間バスの利用者には影響しておらず、むしろ増えている。何があったのかが気になる。(コメントとして発言) ・P12「公共交通カバー率」、鉄道駅から半径 800m、バス停から半径 300m の円を描いて円内の人口を割り出している。鉄道駅やバス停は隣接市町にもあるが、それも踏まえた値なのか、泉佐野市内の鉄道駅とバス停だけで円を描いたのか、どちらなのか。
事務局	・泉佐野市内の鉄道駅とバス停のみである。
伊勢副会長	・P12 の図の中央の右側（大池公園付近）に真っ赤のメッシュが 1 つある。かなり人口が多くなっているが、もしかすると近くに路線バスがありカバーされているか、100m メッシュなので隣の市町村にメッシュが入っている可能性がある。Google マップを見ると池しかないが、隣の市町に住宅団地があるので泉佐野市の人口としては 0 かと思う。泉佐野市が支援すべきエリアなのか境界をしっかりと見ていただきたい。 ・P20「本市の公共交通が抱える問題の構造と課題」の「利用環境」に対する課題である「使いにくい、わかりにくい、便数が少ない、速達性が低い」を改善してデフレスパイラルを無くして利用客を増やそうというロジックかと思うが、コミュニティバスを便利にすると、逆に路線バスの利用客を減らすことになる気がする。路線バスの状況も調査や課題の検討が重要だったのではないかな。 ・「利用者の減少→収益低下→サービス低下」はよく用いられるが、コミュニティバスの課題を改善しないと利用者が減り収益低下という流れではなく、コミュニティバスは無料なので、利用者の増減で収益は低下せず財政支出が増える流れではないかな。このあたりを慎重に書いていただきたい。 ・実際、路線バスは何らかの課題があって減っており、利用環境等の課題から下の図（デフレスパイラル）に持っていくには無理がある。今後、事業者ヒアリングを踏まえて課題が加筆され、コミュニティバスも民間路線バスも互いが共存していくような公共交通の計画にしていこうと思うが、これは現状のコミュニティバスの問題に特化した図として委員の皆様には理解していただかないといけない。南海ウイングバスもこのまま進められると問題があるのではないかな。(指摘として発言)
事務局	・地域の公共交通を考えることを重視する計画という認識がある。 ・コミュニティバスは、以前は南海ウイングバスが運営されていたとうかがっている。今は市の補助金により、南海ウイングバスが運行しているが、運営方法も含めて、今後違う形で路線再編も想定できるので、まずはニーズを把握させていただいた。 ・事業者ヒアリングで、既存の路線バスについても問題、課題をお持ちだと思うので、お伺いさせていただく予定である。バスの利用実態調査についても、コミュニティバスに偏った調査を元々は想定していたが、市内の乗合バスについても乗り込んで実態調査をさせていただきたい。

真瀬会長	・路線バスの利用実態調査は南海ウイングバスに許可を取らないと難しいのではない か。
鬼迫委員	・P9「バスネットワーク」で、和歌山県からりんくうタウンに、和歌山バスと思うが 府県をまたいで運行している路線があるのではないか。 ・P17「コミュニティバスの利用機会」で、「運転免許証を返納した場合」というのは、 返納したらという仮定の時なのか、もう既に返納しているのか。 ・他市町では、病院が運行する送迎バスや商業施設が運行するシャトルバスを活用、 共存するようお考えいただいたり補助制度を作っていたりしている。今後の 利用実態やルートの検討の上で、公共交通ではないが実態として市民の足になりつ つあるものも把握した方がより実践的かと思う。
真瀬会長	・粉河熊取線が以前は走っていた。今も運行中か、事務局には調査していただきたい。
事務局	・免許返納の設問については、仮定の話で「免許返納したら利用を検討する」という、 まだ返納してない方の回答である。
真瀬会長	・病院や商業施設が循環バスみたいなものはないのかというご質問。市と関わりのある りんくう総合医療センターは病院バスがない。民間病院のバス、熊取町の永山病 院は小さなバスがあるように思う。商業施設のバスは、たぶん無かったと思う。そ のあたりの調査はできるのか。
事務局	・デイサービスで使われている小型車や病院の送迎バスなど、そういうものがないか どうかは確認している。 ・地域公共交通計画は、路線バス、鉄道だけではなく、様々な交通モードを総動員で 上手く運用しながら、地域公共交通サービスに反映させていく計画だと認識してい る。地域の輸送資源の調査もしているが、今のところ把握できているのは、公共交 通に転換できるようなモードが存在しないということ。何か有効なものがあれば、 もう少し補足できるかと思う。
荻屋委員代理	・市内の公共交通のことを主に議論というのは承知の上で、少し外れた質問になるか も知れないが、関西国際空港のアクセスの話は、この会議では取り扱わないという 認識でよいか。
真瀬会長	・今のところ、市内の公共交通について市民からたくさんの要望をいただいております、 まずは地域公共交通網のことを考えたいと思っているので、関西国際空港アクセス については、この場では取り扱わない。
荻屋委員代理	・将来的に地域公共交通計画を作るのであれば、検討する必要があるのかと思う。
真瀬会長	・駅や病院などの移動ニーズについて、新たな公共交通網を考えたい。どういう手段 かは別として、今のコミュニティバスを補完する交通手段がないかという議論をし ていきたいと考えている。
荻屋委員代理	・関空のバス乗り場やタクシー云々は、関空会社の業務か。泉佐野市が取扱った実績 はあるのか。

真瀬会長	・ 関空に行くバスは関空会社だと認識している。関空会社との話し合いはあると思うが、特に我々から指摘をすることはない。
伊勢副会長	・ P17「コミュニティバスの満足度」、一番下の「総合評価」を見ると、コミュニティバスに対する不満は2割しかなく、実はかなり満足されているサービスである。 ・ 改善するところが少ないサービスにも見えなくはないが、地域によってかなり意見に違いがあるのではないか。今後、計画を立てて何らかの事業をやっていく際に、大きな不満がありやらねばならない地域をあぶり出さねばならない。内部資料として必要があれば、クロス集計により地域別で見えていくことも重要かと思う。(コメントとして発言)。
真瀬会長	・ 現在、無料でコミュニティバスを運行しており、料金に対する苦情はない。 ・ 大体1周80分で片方回りなので、よく言われるのは逆回りをして欲しい、コミュニティバスが走っていない地域も走らせて欲しい。この2点が強い要望であるのは事実である。 ・ 無料化により乗降客がほぼ倍ぐらいに増えたのも事実で、それにより座れなくなったと苦情も聞くことがある。
荻屋委員代理	・ P18、新たな交通モードとしてデマンド交通導入を仮定しての設問があるが、デマンドは入れる方向で話を進めていくのか。 ・ P20、コミュニティバスは、コロナで減少して現在は回復の兆しが見えている。満足度を見ると運行本数と運行ルートが不満として挙がっているが、コミュニティバスの見直しをした上で、それでもダメだったらデマンドを入れる形になるかと思うが、今のところどのような方針か。
真瀬会長	・ 市の考え方は、コミュニティバスを抜本的に変えると大変なことになるという気がしている。今のところ、コミュニティバスについては現状のルートの中で検討し、それを補完するデマンド交通を導入していきたい。
荻屋委員代理	・ 具体的に、どこの地域を走らせるかは、これから調査するのか。
真瀬会長	・ 交通空白地帯はどこか、そこにデマンド交通が必要であるのかを考え、最終的には実証実験をやっていきたい。
荻屋委員代理	・ 次回の第2回協議会までに調査し、対応策を示していただける形になるのか。
真瀬会長	・ 桑村部長（都市整備部）、今のご質問に対しての回答と、今後のスケジュールの説明をお願いしたい。
桑村委員	・ 資料3のP4に「今後のスケジュール」を記載している。先ほど事務局から説明させていただいたように、第2回協議会で事業者調査等の結果報告と、基本的な方針・目標について検討していきたい。具体的な方針はもう少し先になると思う。
真瀬会長	・ 次回は、事業者ヒアリングや、コミュニティバスでのヒアリング調査結果をまとめて、もう一度この場で皆さんにお知らせさせていただき、「次はこういう方向に進める」というところまでと思う。本日は現状と課題の紹介ということでご理解を賜りたい。

前田委員	・一般市民の声と聞いていただきたい。コミュニティバスが充実したり、行政もいろいろ考えていただくのは非常にありがたいが、一方で、富田林、河南町などは非常に大きな話題となっている。委員は企業として出てこられているが、公共交通は大事な住民の足であって、これから先を考える中で今の姿を崩してほしくない。地域の悲劇というか二の舞になっては絶対ならないと改めて声を大にして言わないといけないと思う。くれぐれもよろしくお願いします。
真瀬会長	・顕著となっている 2024 年問題、ドライバー不足をご心配されてのお話と思う。現状、南海ウイングバスの状況はいかがか。
讃井委員	・ドライバー不足は他に漏れず同じである。採用活動はしているがなかなか集まりにくい中、運転体験会という実際にバスに乗っていただくイベントを開催している。
真瀬会長	・今後ともドライバー不足にならないよう採用し、現状の運行を維持していただけるということでよろしいか。
讃井委員	・努力する。
真瀬会長	・南海電鉄も JR 西日本も、同じような働き手不足が顕著化している状況なので、どうかよろしくお願ひしたいと思う。
芝辻委員	・タクシーについては、コロナ明けから乗務員の募集がかなりある。去年 1 年、大阪タクシー協会で 800 人の乗務員が増えている。特に泉州方面でも若い方、女性の方が非常に増えて充足率は上がっている。 ・富田林の会議に入らせてもらっているが、あのようになると遅い。河内長野は一足先に動いていた。実際に金剛バスが廃止になり住民が慌てた。だから本当に、市民の方には公共交通にもっと興味を持ってもらわないといけない。自家用車が普及して皆さんが乗られないので本数を減らしてきたが、路線廃止になってから「これはえらいことだ」と役所に「どうなっている」というのはもう遅い。 ・タクシー会社も、コロナで岸和田の会社が 1 社潰れた。大阪市内のように何百社とあればいいが、泉佐野で営業しているのは 4 社ぐらいで 1 社のウェイトが大きい。我々は岬町の端まで車を置いて、絶対に交通空白地帯を作ってはいけないと乗務員に言っている。固定給の乗務員を行かせているが、6 時間もお客がいないことがある。我々は大阪府下、第一交通は交通空白地域を絶対に作らない。本当に最後は住民の熱意と思う。 ・デマンドに関しても、おそらく行政が「こういうのあります」では成功しない。住民から「こういうのが欲しい」、「この地域で困っているから欲しい」という声をあげないといけない。データを取って、ここが不足しているから補充するようでは、おそらくは乗られない。 ・我々の業界でも免許返納割引をさせてもらっている。その他、妊婦さんのタクシーなど地域にちょっとでも貢献しないといけない。泉佐野市の場合は、高齢者にタクシーチケットを出してもらっているのがありがたい。住民がもう少し公共交通に興

味を持つよう、選択肢として電車、バス、タクシーが出るようなPRや広報活動といった施策を市に打ち出してもらいたい。

- ・泉佐野市民も、おそらく半数ぐらいは公共交通に乗ったことがないのではないかな。その方に1回でも乗っていただくとところに力を入れてもらえれば、この交通空白地域というのは埋まるのではないかな。
- ・富田林では、こうなってはもう遅いという状況が目に見えていた。事業者も南海ウイングバスみたいな会社でなかったのが、なるべくしてなったのかもしれない。しかし、それで困るのは住民、利用者なので、そうならないためにも、日頃から乗っておられない方に公共交通に興味を持っていただくということで、おそらく持続可能となる。
- ・デマンドなどが出ているが、最終的には地域の方が興味を持っていただくのが一番。

真瀬会長

- ・貴重なご意見を頂戴した。
 - ・他にご意見がないので、たくさん頂戴したご意見のお返しを含めて、次回の協議会とさせていただきます。
-

5 その他

真瀬会長

- ・次回の会議については、4月頃というご提案をしている。開催日は現時点では案の段階だが、皆様方にはご予定を調整いただくよう、よろしくお願いしたい。以上をもって、第1回泉佐野市地域公共交通協議会を閉会する。

(閉会の挨拶内容は以下のとおり)

- ・閉会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。皆様、本日は長時間にわたり協議会にご出席賜りまして、どうもありがとうございます。たくさんのご意見も頂戴したところでございますが、なるべくよい計画を作ってまいりたいと考えておりますので、今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

6 閉会

- ・事務局の司会により閉会（15時5分）